

分類名	解析内容	該当DPCコード	その他の抽出条件 (Kコード注)/ICD-10等)	解析適用基準	頁
6 動脈管閉塞症/心房中隔欠損症/心室中隔欠損症/非短絡性心奇形/新生児乳児の先天性心疾患	心臓血管外科専門医認定機構難易度A指定の先天性心疾患における一入院当たり診療報酬(出来高)平均値	1402903/ 1403003/ 1403103/ 1403403/ 1403603	附表を参照	外れ値両側5%は除外 件数上位25%(3件以上)の施設対象	230
7 心房中隔欠損症/心室中隔欠損症/房室中隔欠損症/その他の先天性心疾患/非短絡性心奇形/アフロ-四徴症/新生児乳児の先天性心疾患/その他の複雑心奇形	心臓血管外科専門医認定機構難易度B指定の先天性心疾患の手術件数	1403003/ 1403103/ 1403203/ 1403303/ 1403403/ 1403503/ 1403603/ 1403703	附表を参照		231
8 心房中隔欠損症/心室中隔欠損症/房室中隔欠損症/その他の先天性心疾患/非短絡性心奇形/アフロ-四徴症/新生児乳児の先天性心疾患/その他の複雑心奇形	心臓血管外科専門医認定機構難易度B指定の先天性心疾患における平均在院日数	1403003/ 1403103/ 1403203/ 1403303/ 1403403/ 1403503/ 1403603/ 1403703	附表を参照	外れ値両側5%は除外 件数上位25%(2件以上)の施設対象	232
9 心房中隔欠損症/心室中隔欠損症/房室中隔欠損症/その他の先天性心疾患/非短絡性心奇形/アフロ-四徴症/新生児乳児の先天性心疾患/その他の複雑心奇形	心臓血管外科専門医認定機構難易度B指定の先天性心疾患における平均在院日数	1403003/ 1403103/ 1403203/ 1403303/ 1403403/ 1403503/ 1403603/ 1403703	附表を参照	外れ値両側5%は除外 件数上位25%(2件以上)の施設対象	233
10 心房中隔欠損症/心室中隔欠損症/房室中隔欠損症/その他の先天性心疾患/非短絡性心奇形/アフロ-四徴症/新生児乳児の先天性心疾患/その他の複雑心奇形	心臓血管外科専門医認定機構難易度C指定の先天性心疾患の手術件数	1403003/ 1403103/ 1403203/ 1403303/ 1403403/ 1403503/ 1403603/ 1403703	附表を参照		234
11 心房中隔欠損症/心室中隔欠損症/房室中隔欠損症/その他の先天性心疾患/非短絡性心奇形/アフロ-四徴症/新生児乳児の先天性心疾患/その他の複雑心奇形	心臓血管外科専門医認定機構難易度C指定の先天性心疾患における平均在院日数	1403003/ 1403103/ 1403203/ 1403303/ 1403403/ 1403503/ 1403603/ 1403703	附表を参照	外れ値両側5%は除外 件数上位25%(1件以上)の施設対象	235
12 心房中隔欠損症/心室中隔欠損症/房室中隔欠損症/その他の先天性心疾患/非短絡性心奇形/アフロ-四徴症/新生児乳児の先天性心疾患/その他の複雑心奇形	心臓血管外科専門医認定機構難易度C指定の先天性心疾患における一入院当たり診療報酬(出来高)平均値	1403003/ 1403103/ 1403203/ 1403303/ 1403403/ 1403503/ 1403603/ 1403703	附表を参照	外れ値両側5%は除外 件数上位25%(1件以上)の施設対象	236

MDC15: 小児疾患

1 ウイルス性腸炎	入院件数(検査入院含む)	1500101/ 1500103			239
2 ウイルス性腸炎	平均在院日数(検査入院含む)	1500101/ 1500103		外れ値両側5%は除外 20件以上の施設対象	240
3 ウイルス性腸炎	ウイルス性腸炎(検査入院を含む)における一入院当たり診療報酬(出来高)平均値	1500101/ 1500103		外れ値両側5%は除外 20件以上の施設対象	241
4 ウイルス性髄膜炎/急性脳炎・急性脳症	入院件数	150030/ 150050			242

MDC16: 外傷・熱傷・中毒・異物、その他の疾患

1 股関節大腿近位骨折	術式別手術施行件数(全部位)	1608003x01/ 1608003x02	K0461		245
2 股関節大腿近位骨折	術式別手術施行割合(全部位)	1608003x01/ 1608003x02	K0461	件数上位25%(13件以上)の施設対象	246
3 股関節大腿近位骨折	年齢・部位別入院件数(全部位)	1608003	ICD-10: S720/ S721/ S722/ S727/ S728/ S730		247
4 股関節大腿近位骨折	年齢・部位別入院割合(全部位)	1608003	ICD-10: S720/ S721/ S722/ S727/ S728/ S730	件数上位25%(12件以上)の施設対象	248
5 股関節大腿近位骨折	年齢・術式別手術施行件数(頭部のみ)	1608003x01/ 1608003x02	K0461/ ICD-10: S720		249
6 股関節大腿近位骨折	年齢・術式別手術施行割合(頭部のみ)	1608003x01/ 1608003x02	K0461/ ICD-10: S720	件数上位25%(9件以上)の施設対象	250
7 股関節大腿近位骨折	年齢・術式別手術施行件数(その他部位)	1608003x01/ 1608003x02	K0461/ ICD-10: S721/ S722/ S727/ S728/ S730		251
8 股関節大腿近位骨折	年齢・術式別手術施行割合(その他部位)	1608003x01/ 1608003x02	K0461/ ICD-10: S721/ S722/ S727/ S728/ S730	件数上位25%(9件以上)の施設対象	252
9 股関節大腿近位骨折	人工骨頭挿入術施行症例における平均在院日数	1608003x01		外れ値両側5%は除外 件数上位25%(4件以上)の施設対象	253

分類名	解析内容	該当DPCコード	その他の抽出条件 (Kコード [※] /ICD-10等)	解析適用基準	頁
10 股関節大腿近位骨折	骨折観血的手術施行症例における平均在院日数	1608003x02	K0461	外れ値両側5%は除外 件数上位25%(8件以上)の施設対象	254
11 股関節大腿近位骨折	手術施行症例(全部位)における一入院当たり一入院当たり診療報酬(出来高)平均値	1608003x01 / 1608003x02	K0461	外れ値両側5%は除外 件数上位25%(17件以上)の施設対象	255
12 敗血症その他の感染症	年齢別発生件数	1601603			256
13 骨盤骨折	入院件数	1609803			257
14 多発外傷	入院件数	1609903			258
15 熱傷・化学熱傷・凍傷・電撃症	入院件数	1610003			259

MDC横断解析

1 入院後に発症した敗血症	入院後に発症した敗血症の件数(乳児／1～14歳／15歳以上)		ICD-10: A021/ A207/ A221/ A241/ A267/ A282/ A327/ A394/ A408/ A413/ A427/ A548/ B007/ B349/ B371/ D71/ I301/ I330/ I400/ I776/ J020/ J189/ J209/ J950/ L029/ L080/ M8699/ O080/ O753/ O85/ O883/ P369/ T814/ T880	最も資源を利用した疾患名または副 傷病名に「肺血症」に相当するICD10 コードが含まれ、かつ「入院契機となっ た傷病名」のICD10コードが「肺血症」 に相当するものを除いた。	263
2 入院後に発症した敗血症	入院後に発症した敗血症の発生率(乳児)				264
3 入院後に発症した敗血症	入院後に発症した敗血症の発生率(1～14歳)				265
4 入院後に発症した敗血症	入院後に発症した敗血症の発生率(15歳以上)				266
5 入院後に発症した播種性凝固性血管内症候群(DIC)	入院後に発症したDICの件数(乳児／1～14歳／15歳以上)		ICD-10: P60\$/ O723/ O081 / D65		267
6 入院後に発症した播種性凝固性血管内症候群(DIC)	入院後に発症したDICの発生率(15歳以上)		ICD-10: P60\$/ O723/ O081 / D65		268
7 入院後に発症した播種性凝固性血管内症候群(DIC)	入院後に発症したDICの死亡率(15歳以上)		ICD-10: P60\$/ O723/ O081 / D65	症例数上位25%(14例以上)の施設を 解析対象とした	269
8 血漿交換	入院中に血漿交換を施行した患者数				270
9 血漿交換	血漿交換が施行された患者の平均利用日数			DPC基礎調査表の変数「血 漿交換療法」の入力が1の もの	271
10 血漿交換	血漿交換の利用率(1000患者・日あたりの施行日数)				272
11 人工腎臓	人工腎臓を利用した患者数				273
12 人工腎臓	人工腎臓を利用した患者の平均利用日数			人工腎臓施行症例が1以上の施設	274
13 人工腎臓	人工腎臓の利用率(1,000患者・日あたりの施行日数)				275
14 新生児特定集中治療室(NICU)	NICUに入室した患者数				276
15 新生児特定集中治療室(NICU)	出生時体重の分布			NICU入室患者数5以上の施設	277

分類名	解析内容	該当DPCコード	その他の抽出条件 (Kコード [※])/ICD-10等)	解析適用基準	頁
16 新生児特定集中治療室(NICU)	NICUIに入室した出生時体重1000g未満の患者における平均在室日数			NICUI入室患者数10以上の施設	278
17 新生児特定集中治療室(NICU)	NICUIに入室した出生時体重1000g以上1500g未満の患者における平均在室日数			NICUI入室患者数5以上の施設	279
18 新生児特定集中治療室(NICU)	NICUIに入室した修正時体重1500g以上2500g未満の患者における平均在室日数			NICUI入室患者数5以上の施設	280
19 新生児特定集中治療室(NICU)	NICUIに入室した患者のうち人工呼吸を利用した患者の割合			NICUI入室患者数5以上の施設	281
20 麻酔	麻酔件数とその内訳(全身麻酔/脊椎・硬膜外麻酔/局所麻酔/その他の麻酔)			手術・麻酔入力に信頼性のない7施設を除く	282
21 麻酔	全ての麻酔施行症例に全身麻酔(局所麻酔併用を含む)が占める割合			手術・麻酔入力に信頼性のない7施設を除く	283
22 麻酔	全身麻酔に硬膜外麻酔併用が占める割合			手術・麻酔入力に信頼性のない7施設を除く	284
23 肺塞栓	全MDCIにおける肺塞栓症発生件数		ICD-10:I260/I269	主傷病名、医療資源を最も投入した傷病名1～2、入院後発症疾患名1～4のみを対象	285
24 肺塞栓	全MDCIにおける肺塞栓症発生率(10万患者・日当り)		ICD-10:I260/I269	主傷病名、医療資源を最も投入した傷病名1～2、入院後発症疾患名1～4のみを対象	286

附表） 心臓血管外科専門医認定機構による先天性心疾患手術術式の難易度

難易度(A)	難易度(B)	難易度(C)
(1) PDA手術 (2) ASD閉鎖術 (3) VSD(肺動脈弁下型) (4) 肺動脈弁切開術	(1) 体動脈－肺動脈短絡術 (2) 肺動脈絞扼術 (3) CoA(大動脈縮窄術) (4) VSD(膜様部型、筋性部型) (5) PAPVD修復術 (6) ECD (partial) (7) バルサルバ洞動脈瘤破裂手術 (8) DCRV手術 (9) 右室流出路形成術 (10) 大動脈弁切開術 (11) 冠状動脈瘻手術	(1) 体動脈－肺動脈短絡術 (2) 肺動脈絞扼術 (3) CoA(大動脈縮窄術) (4) VSD(膜様部型、筋性部型) (5) PAPVD修復術 (6) ECD (partial) (7) バルサルバ洞動脈瘤破裂手術 (8) DCRV手術 (9) 右室流出路形成術 (10) 大動脈弁切開術 (11) 冠状動脈瘻手術 (12) PDA手術 (13) ASD閉鎖術 (14) VSD(肺動脈弁下型) (15) 肺動脈弁切開術

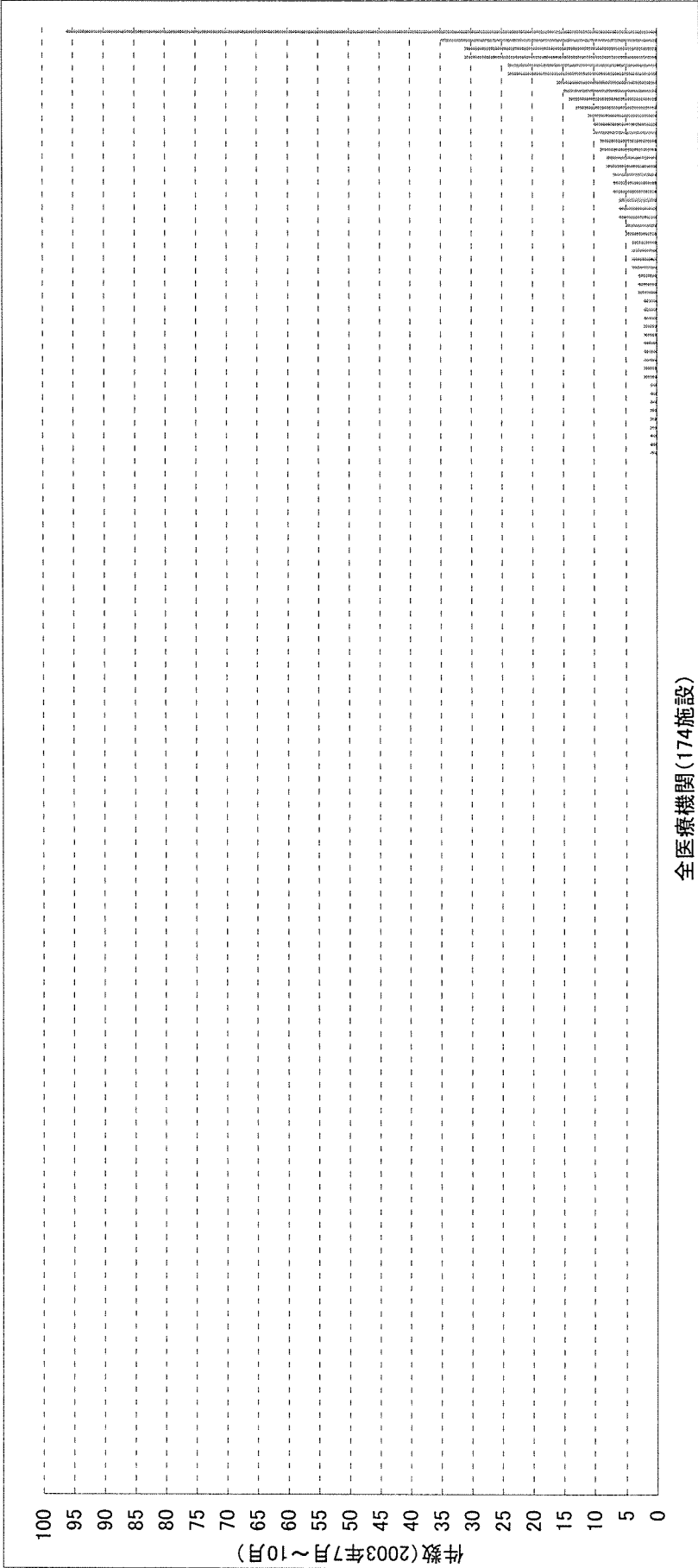
MDC01

神経系疾患

脳腫瘍における定位放射線治療施行件数 (推計)

解析対象DPC番号の範囲 010010

分類名	解析内容	件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル						
脳腫瘍	定位放射線治療推計件数	467	2.7	9.0	0	96	5	10	25	50	75	90	95
							0	0	0	0	1	7	13



【図の説明】

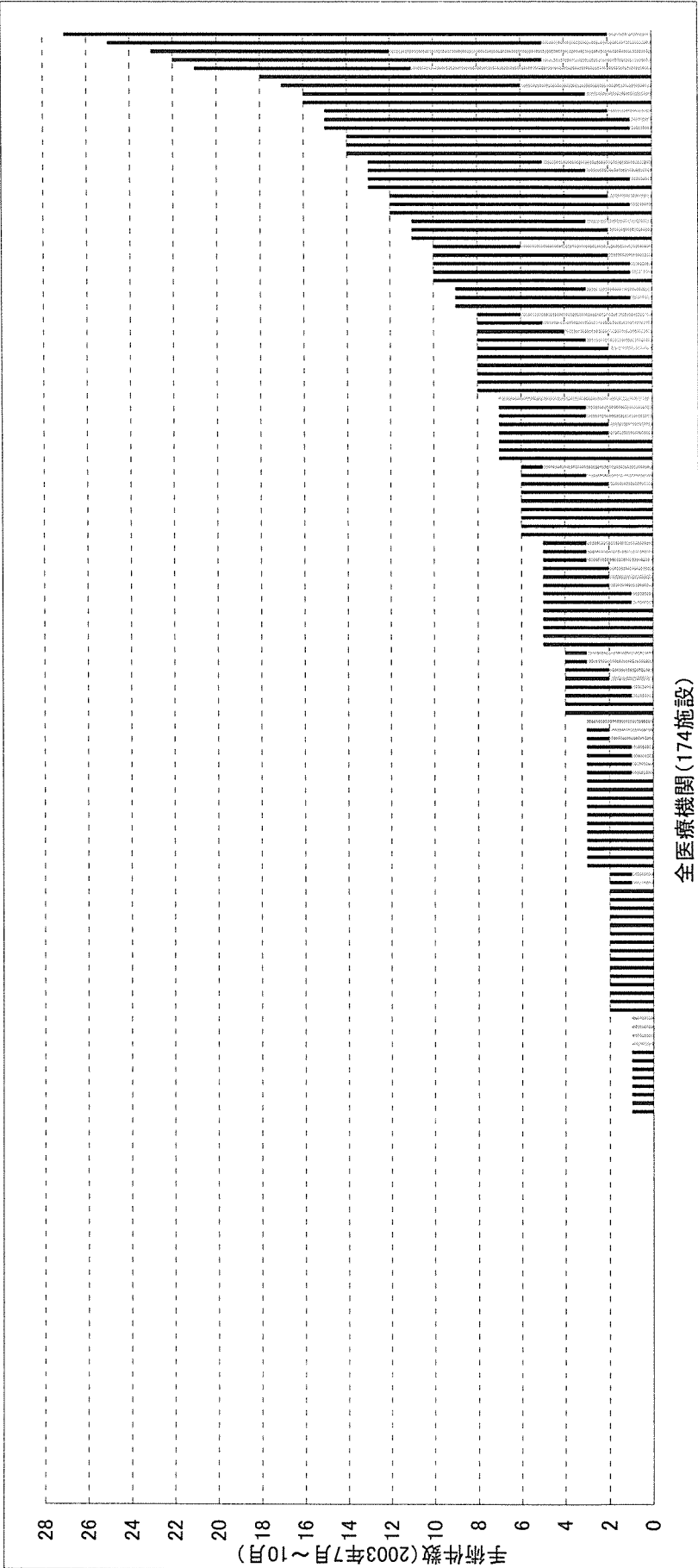
定位放射線治療[薬剤材料以外の放射線点数 ≥ 63,000]

【コメント】

「手術点数表コード」にはガンマナイフ[M001-2]やリニアック[M001-3]のコーディングの大半が入力されていなかったため、レセプト情報の「薬剤材料以外の放射線療法点数」が63,000点以上の症例を両者の治療を受けた症例とみなした。なお、両治療の診療報酬はどちらも同点数(63,000点)であるため、両者の区別は不可能であった。174施設中51施設(29%)において1件以上施行されていた。4ヶ月間における施行件数の中央値は0件ではあるものの、最大で96件の施行がなされた施設があり、施設間で大きな差がみられた。

くも膜下出血・破裂脳動脈瘤のクリッピング・脳血管内手術の施行件数

解析対象DPC番号の範囲 0100203x01 / 0100203x02													
分類名	解析内容	手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル						
							5	10	25	50	75	90	95
くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	脳動脈瘤流入血管クリッピング等の件数	685	3.9	4.7	0	25	0	0	0	2	6	11	14
	脳血管内手術件数	172	1.0	1.9	0	12	0	0	0	0	1	3	5



【図の説明】

：脳血管内手術 [DPC手術コード:01]

：脳動脈瘤流入血管クリッピング等 [DPC手術コード:02]

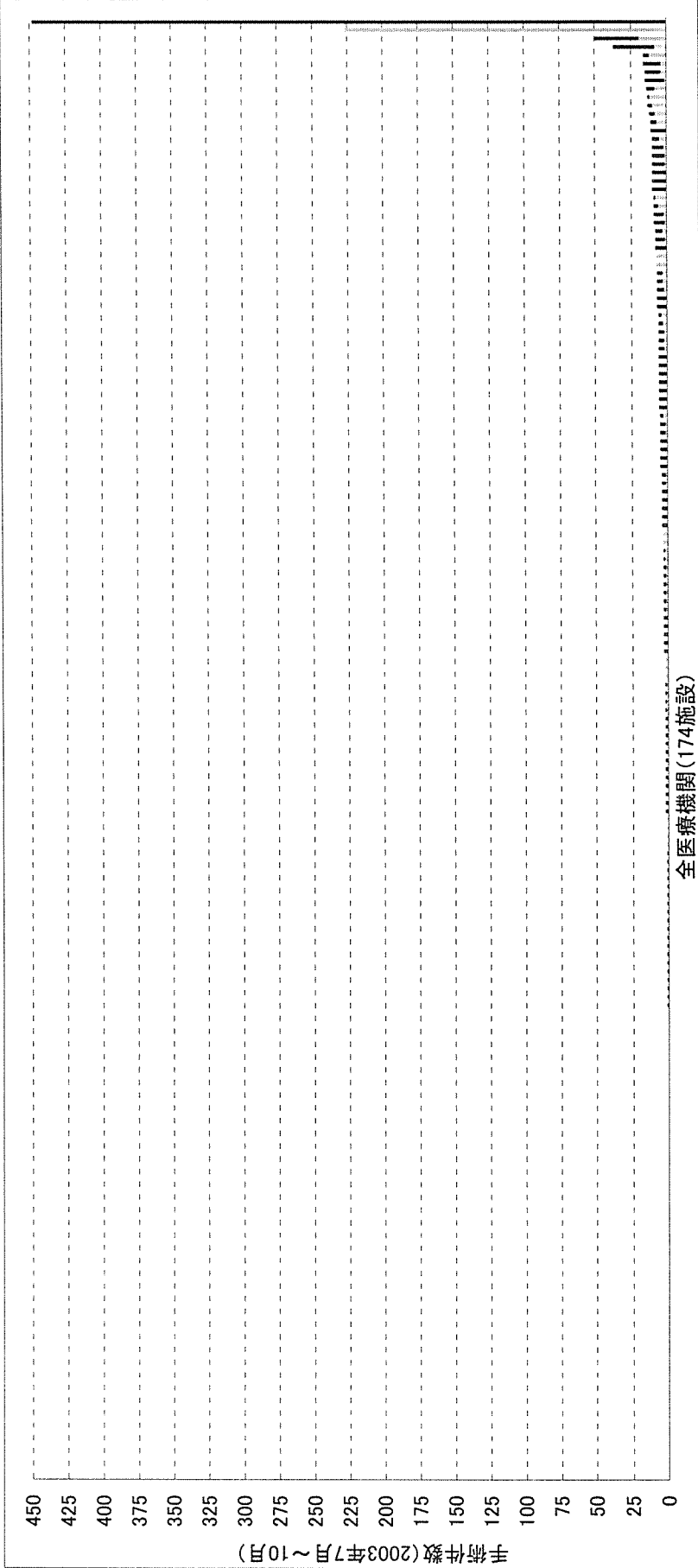
【コメント】

174施設中128施設(73%)において、くも膜下出血・破裂脳動脈瘤症例に対するクリッピング手術または脳血管内手術が施行されていた。全手術症例のうち80%はクリッピング手術で、脳血管内手術症例は20%に留まっていた。脳血管内手術の実施件数は少なく(実施件数の中央値＝0件)、施行症例が4か月間で5件以上あった施設は全体のわずか5%であった。

非破裂脳動脈瘤のクリッピング・脳血管内手術の施行件数

解析対象DPC番号の範囲 0100303x01/ 0100303x02

解析対象DPC番号の範囲		0100303x01/ 0100303x02		パーセンタイル									
分類名	解析内容	手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
非破裂脳動脈瘤	脳動脈瘤流入血管クリッピング等の件数	896	5.1	34.0	0	448	0	0	0	1	4	7	10
	脳血管内手術件数	421	2.4	17.2	0	226	0	0	0	0	1	3	7



全医療機関(174施設)

【図の説明】

：脳血管内手術[DPC手術コード:01]

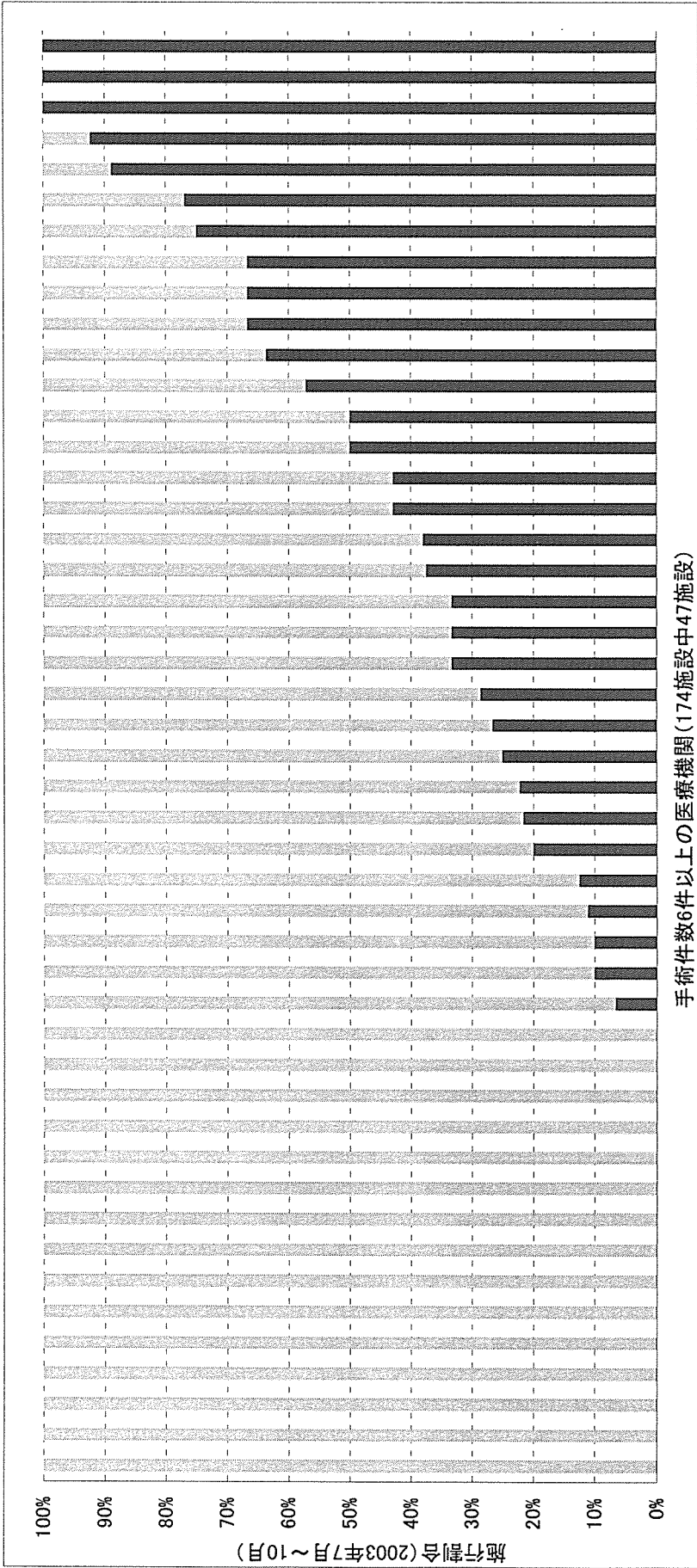
：脳動脈瘤流入血管クリッピング等[DPC手術コード:02]

【コメント】

174施設中118施設(68%)において、非破裂脳動脈瘤に対する手術症例が1件以上把握された。このうち、上位4施設を除く施設では症例数が4か月間に16件以下であったのに対し、上位4施設は症例数が30件を超えていた。全手術症例のうち脳血管内手術症例は3分の1に留まっていた。

非破裂脳動脈瘤のクリッピング・脳血管内手術の施行割合 (N = 1,148)

解析対象DPC番号の範囲		0100303x01/ 0100303x02		パーセンタイル										
分類名	解析内容			平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
非破裂脳動脈瘤	脳動脈瘤流入血管クリッピング等の施行割合			32%	33%	0%	100%	0%	0%	0%	25%	54%	82%	98%
	脳血管内手術施行割合			68%	33%	0%	100%	2%	18%	46%	75%	100%	100%	100%



【図の説明】

件数上位25% (6件以上) の施設を解析対象とした。

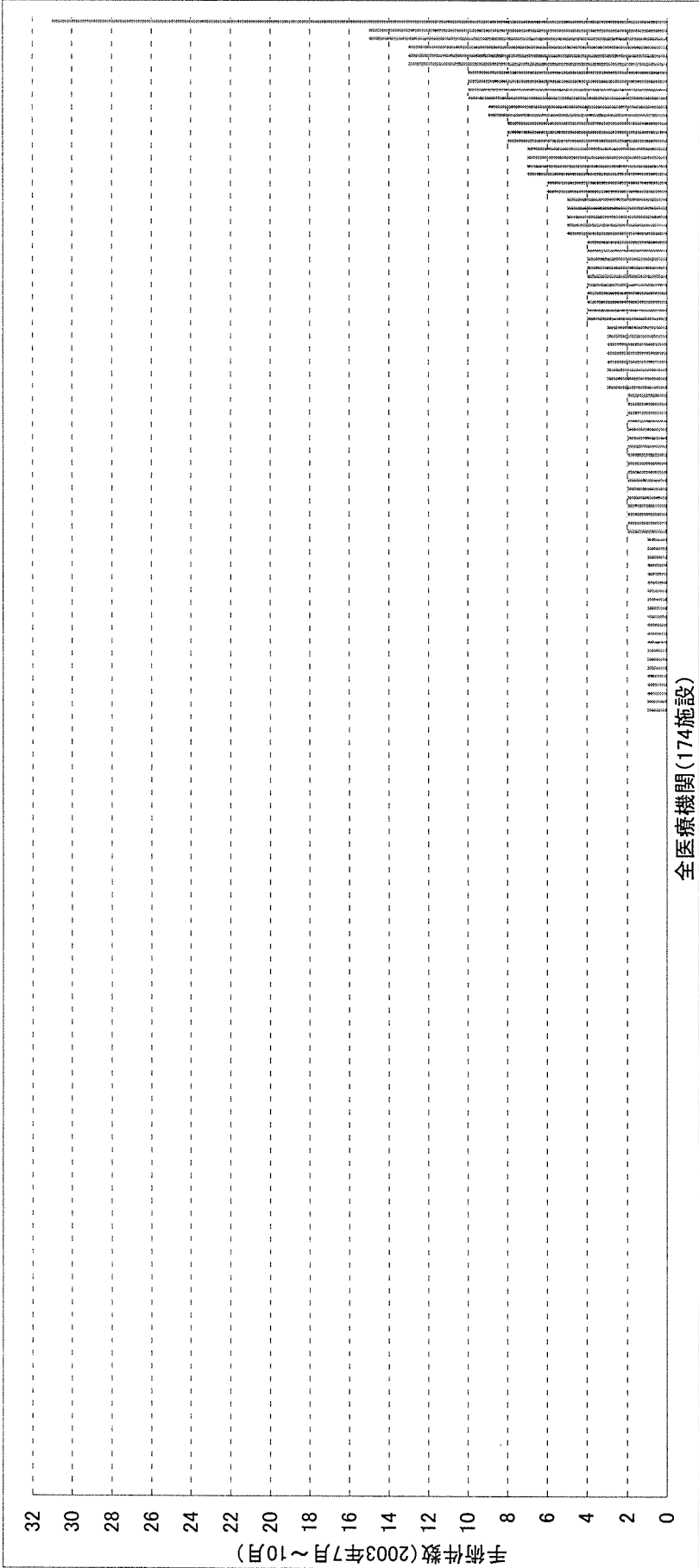
: 脳血管内手術 [DPC手術コード:01]

【コメント】

手術件数が6件以上 (件数上位25%に相当) の47施設を解析対象とした。全体的には、脳血管内手術施行割合は32%であったが、その割合は施設間で大きなバラツキが認められ、脳血管内手術施行割合は0% (15施設) から100% (2施設) まで分布していた。

破裂・非破裂脳動脈瘤の脳血管内手術施行件数

解析対象DPC番号の範囲 0100203および0100303															
分類名		解析内容		手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル						
くも膜下出血/破裂脳動脈瘤および非破裂脳動脈瘤		脳血管内手術件数		366	2.1	3.9	0	31	5	10	25	50	75	90	95
									0	0	0	0	3	7	10



【図の説明】

：脳血管内手術[DPC手術コード:01]

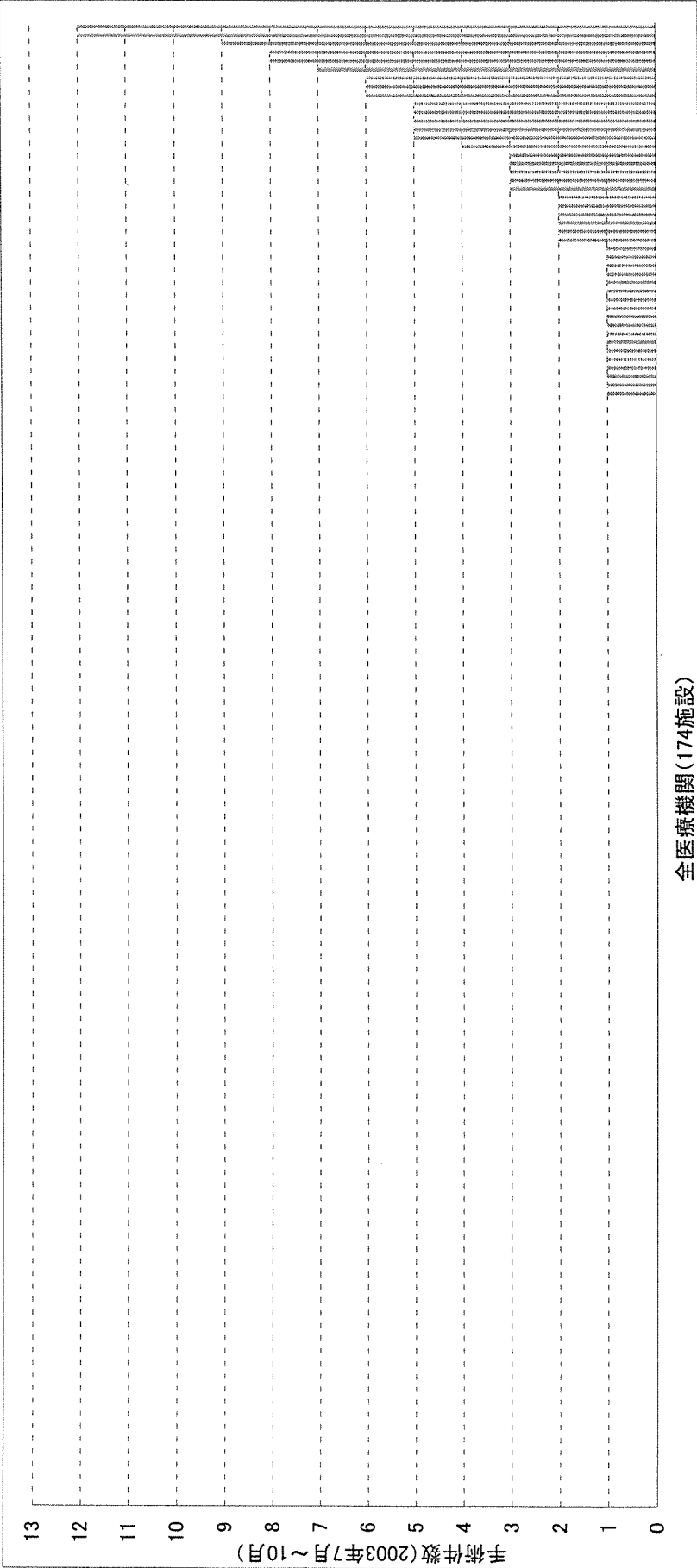
【コメント】

脳血管内手術の施行症例数は少ないことから、破裂脳動脈瘤症例と非破裂脳動脈瘤症例とを併せて脳血管手術施行件数を検討した。その結果、約半数の施設(174施設中82施設、47%)で脳血管内手術が施行されていた(施行件数の中央値＝0件)。

脳梗塞の脳血管内手術施行件数

解析対象DPC番号の範囲 0100603x01

分類名	解析内容	手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル						
							5	10	25	50	75	90	95
脳梗塞	脳血管内手術件数	148	0.9	2.1	0	12	0	0	0	0	1	3	5



全医療機関(174施設)

【図の説明】

脳血管内手術[DPC手術コード:01]

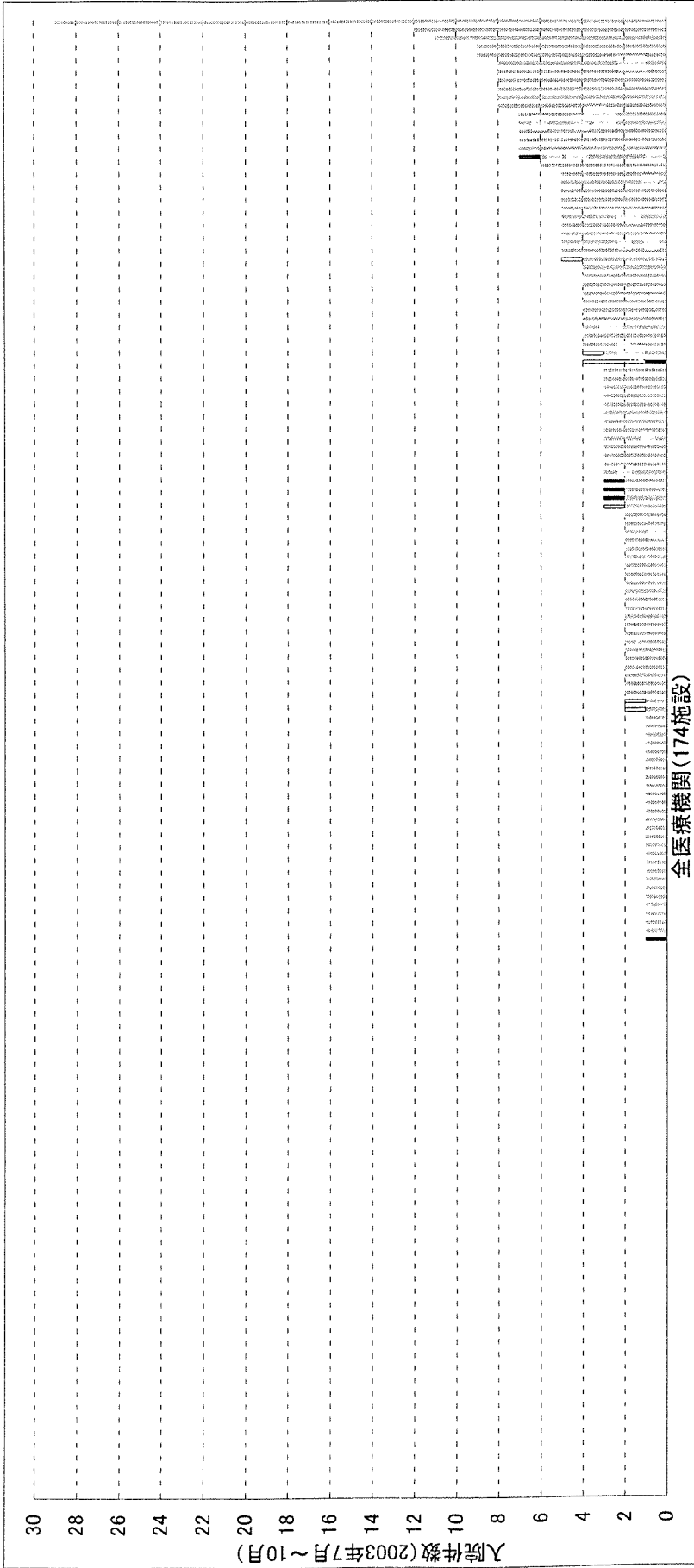
【コメント】

脳梗塞症例に対する脳血管内手術施行症例数を調べたところ、ほとんどの医療機関(174施設中130施設(75%))では脳血管内手術が1例も実施されていない一方で、14施設では4か月間に5例以上実施されていた(施行件数の中央値=0件)が示された。

MDC01に分類された脳炎入院件数

解析対象DPC番号の範囲 010080/ 010083/ 010320

分類名	解析内容	入院件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
全神経系疾患	中枢神経系感染症	8	0.0	0.3	0	3	0	0	0	0	0	0	0
	結核性髄炎、髄膜炎	6	0.0	0.2	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	脳脊髄の感染を伴う炎症	381	2.2	3.2	0	29	0	0	0	1	3	6	8



【図の説明】

解析対象DPC番号の範囲 010080/ 010083/ 010320 : 結核性髄膜炎、髄膜炎[DPCコード: 010083]

解析対象DPC番号の範囲 010080/ 010083/ 010320 : 中枢神経系感染症[DPCコード: 010320]

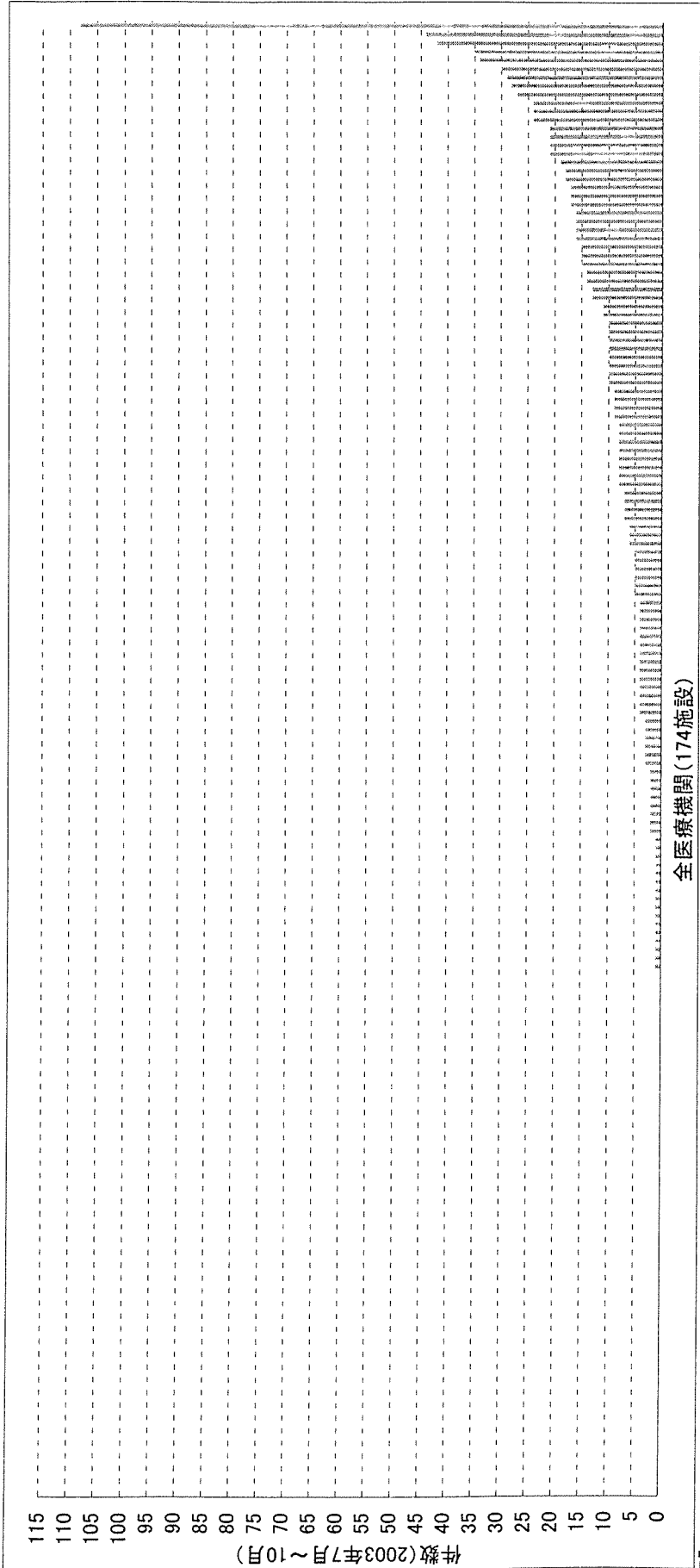
解析対象DPC番号の範囲 010080/ 010083/ 010320

【コメント】

ここでは、脳炎症例を「脳脊髄の感染を伴う炎症」(DPC: 010080)・「結核性髄膜炎」(DPC: 010083)・「中枢神経系感染症」(DPC: 010320)のいずれかの症例とした。174施設中109施設(63%)で約400件の症例があった。全症例のうち、脳脊髄の感染を伴う炎症が全体の96%を占め、その他の脳炎はごくわずかであった。最大の症例数を有する施設でも脳炎症例数が1ヶ月におよそ7件弱であった。

MDC1全症例の放射線療法施行件数

解析対象DPC番号の範囲 全MDC1										パーセンタイル						
分類名	解析内容		件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95		
全神経系疾患	放射線療法件数		1,186	6.8	11.6	0	108	0	0	0	3	9	18	25		



【図の説明】

放射線療法[DPC基礎調査表(様式1):放射線療法の有無]

【コメント】

放射線療法はMDC1全体の約3分の2(174施設中112施設(64%))の医療機関で実施されており、4か月間における施行件数の中央値は3件であったが、その施行件数には施設間で大きなバラツキが生じているのが特徴的であった(最小値0件、最大値108件)。放射線療法施行症例の「医療資源を最も投入した傷病名」は、転移性脳・脳髄膜腫瘍が過半数の55%を占め、次いで原発性脳腫瘍が43%を占めていた。

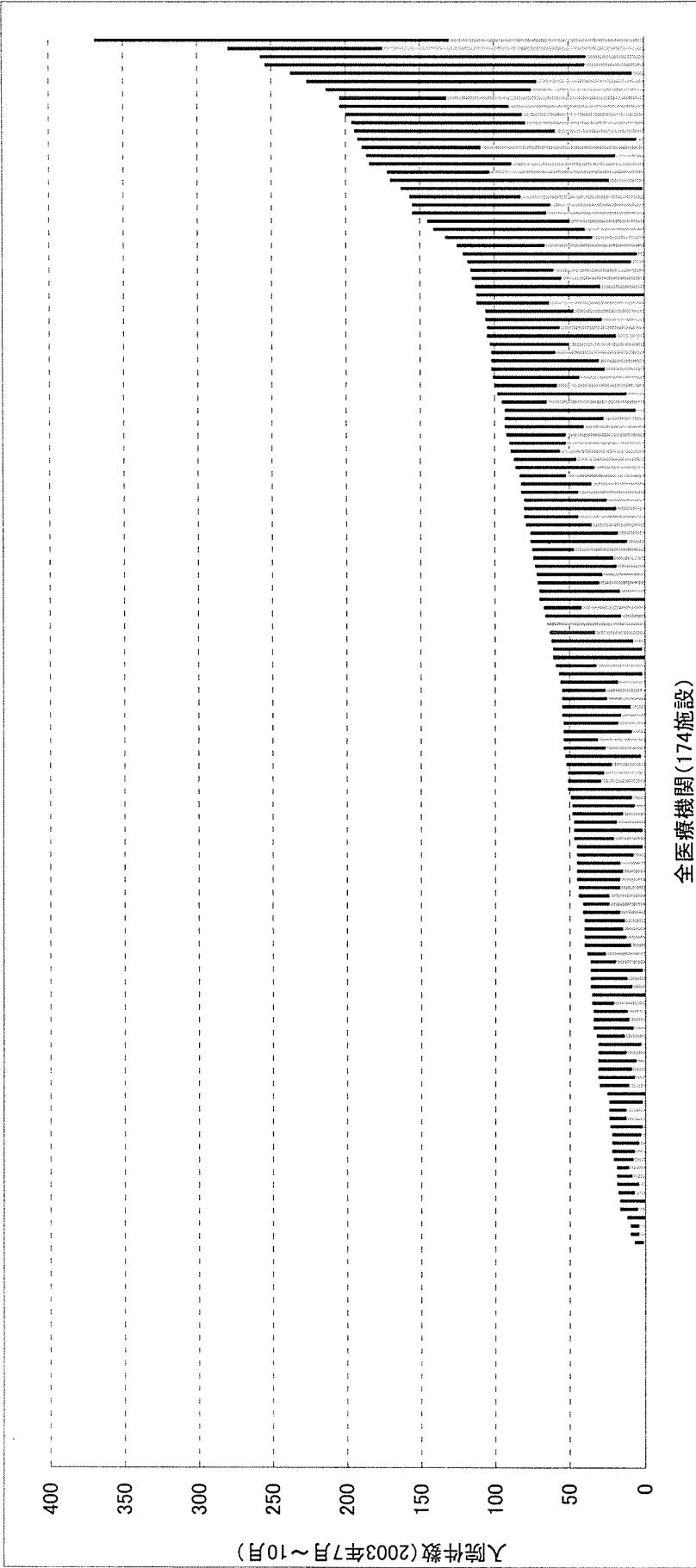
MDC02

眼科系疾患

白内障、水晶体の疾患の手術施行例の入院件数

解析対象DPC番号の範囲 0201103

分類名	解析内容	入院件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
白内障、水晶体の疾患	手術が施行された件例	12,156	70	65	0	369	0	0	24	54	97	168	201
	片側手術の件数	7,956	46	47	0	239	0	0	16	31	59	103	141
	両側手術の件数	4,200	24	29	0	175	0	0	2	15	34	61	80



【図の説明】

片側手術の件数

両側手術の件数

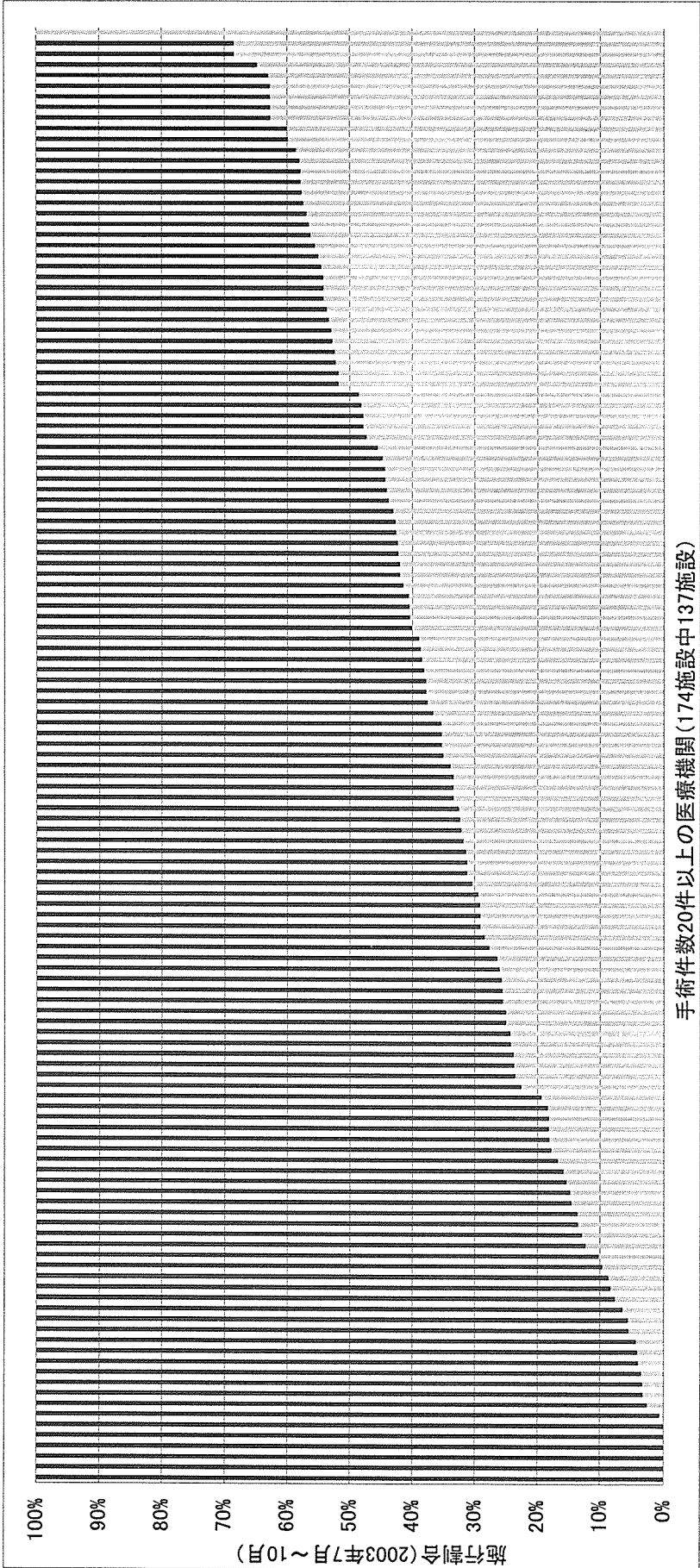
【コメント】

- ・白内障、水晶体の疾患の件数は、MDC 02の全入院件数の約45%を占めていた。
- ・手術件数1件以上の医療機関は148施設(全体の85%)において見られた。
- ・白内障、水晶体の疾患の手術件数としては、両側よりも片側が多く行なわれていた。

白内障、水晶体の疾患の治療内訳(N = 12,451)

解析対象DPC番号の範囲 0201103

分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル							
						5	10	25	50	75	90	95	98
白内障、水晶体の疾患	片側手術が施行された症例	66%	20%	0%	100%	37%	42%	51%	65%	82%	95%	98%	
	両側手術が施行された症例	34%	20%	0%	100%	2%	5%	18%	35%	49%	58%	63%	



【図の説明】

手術件数20件以上

：両側手術の施工割合

：片側手術の施工割合

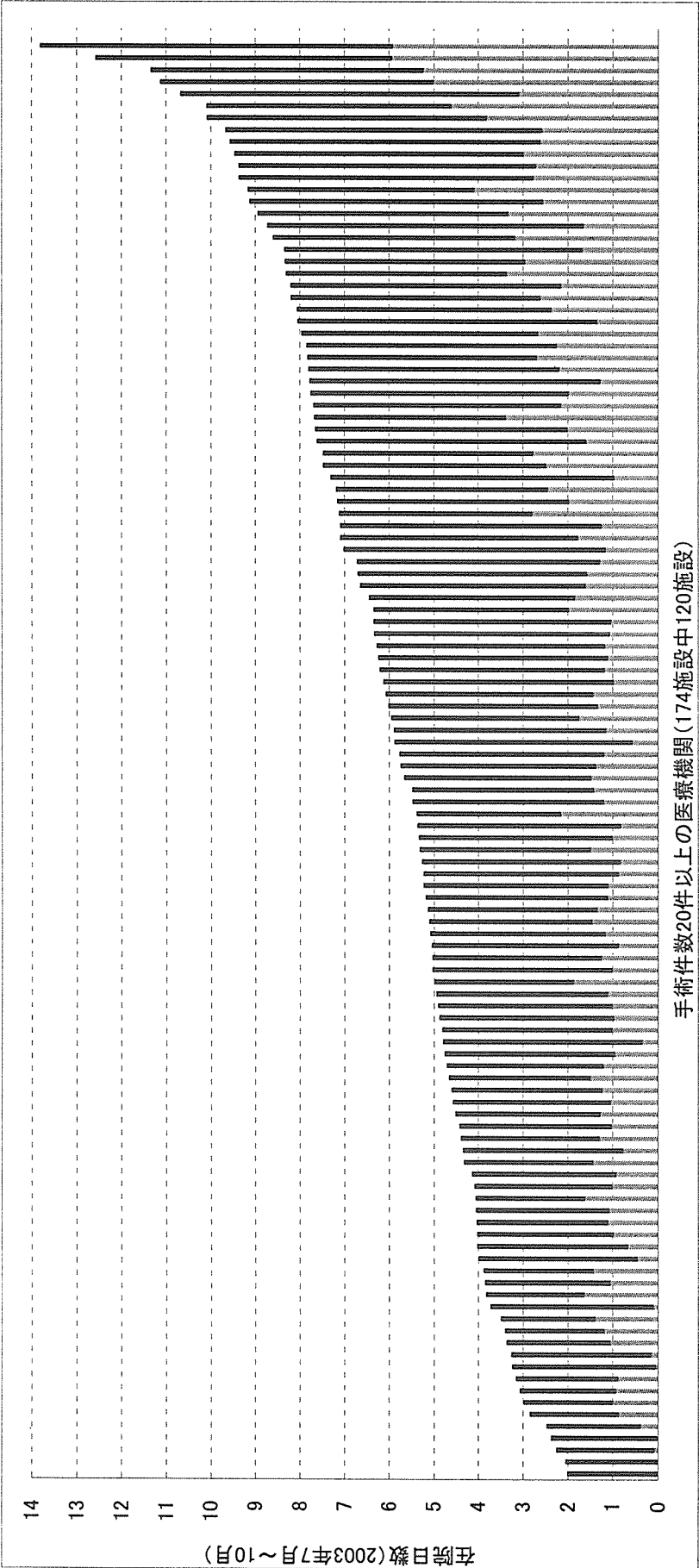
【コメント】

- ・両側手術の手術件数は全手術件数の3割強を占めており、片側手術は7割弱を占めていた。
- ・白内障、水晶体の疾患の手術件数と両側・方側の割合に、相関は見られなかった。

白内障、水晶体の疾患に対し片側手術を行なった症例における平均在院日数(N = 7,033)

解析対象DPC番号の範囲 0201103

分類名	解析内容	パーセンタイル										
		平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
白内障、水晶体の疾患	在院日数	6.1	2.3	2.0	13.8	3.0	3.4	4.5	5.8	7.7	9.2	10.1
	術後在院日数	4.5	1.4	2.0	7.9	2.2	2.3	3.4	4.4	5.5	6.5	6.7
	術前在院日数	1.7	1.1	0.0	5.9	0.1	0.8	1.0	1.3	2.1	3.0	3.8



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数20件以上の施設を解析対象とした。

：片側手術が施行された症例の術前在院日数

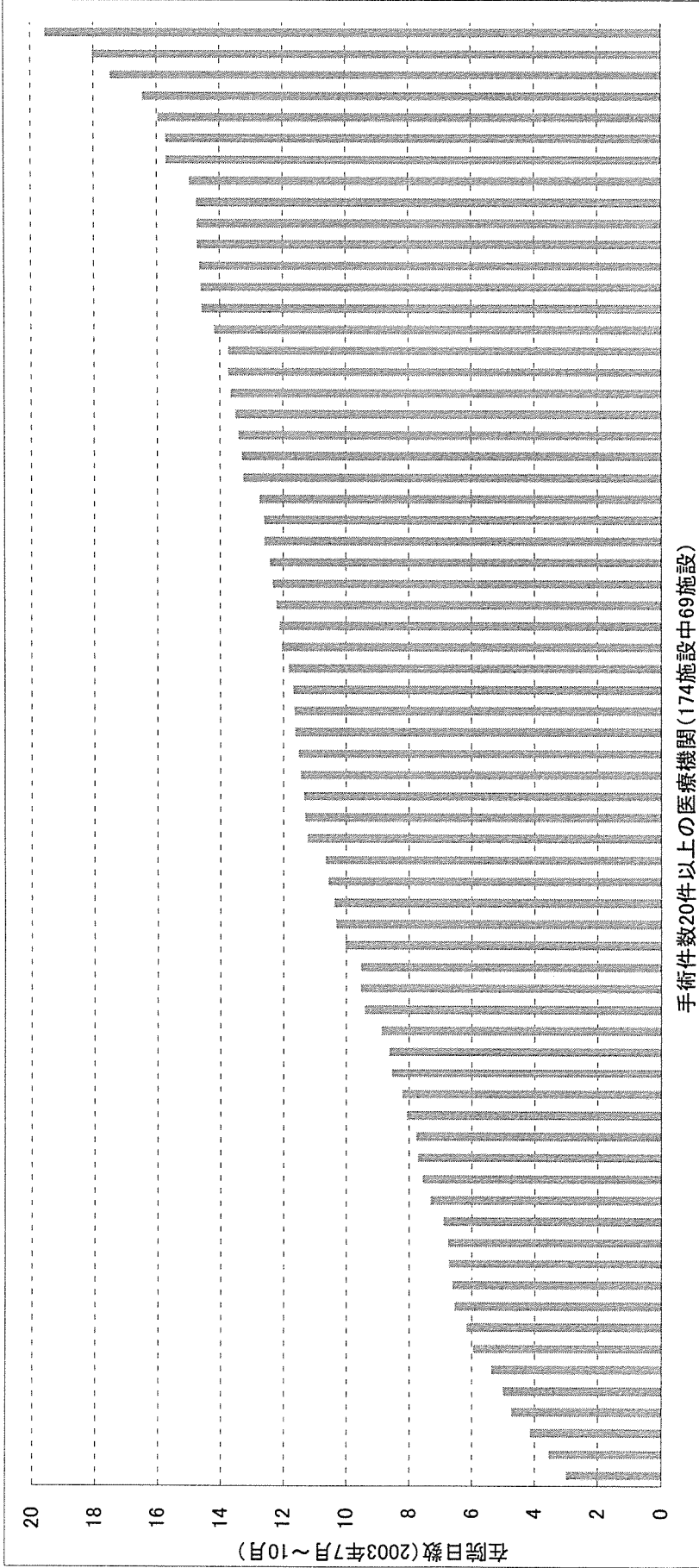
：片側手術が施行された症例の術後在院日数

【コメント】

- ・平均在院日数は、最も長い施設では最も短い施設の7倍であった。
- ・片側手術が施行された症例20例以上の医療施設には、平均術前日数が1日未満の施設(手術件数:70～106件)が、数施設見られた。

白内障、水晶体の疾患に対し両側手術を行なった症例における平均在院日数(N = 3,413)

解析対象DPC番号の範囲 0201103		解析内容		平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル						
分類名	在院日数	在院日数		11.0	3.7	3.0	19.5	5	10	25	50	75	90	95
白内障、水晶体の疾患								4.8	6.1	8.1	11.5	13.6	15.1	16.2



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数20件以上の施設を解析対象とした。

：両側手術が施行された症例の在院日数

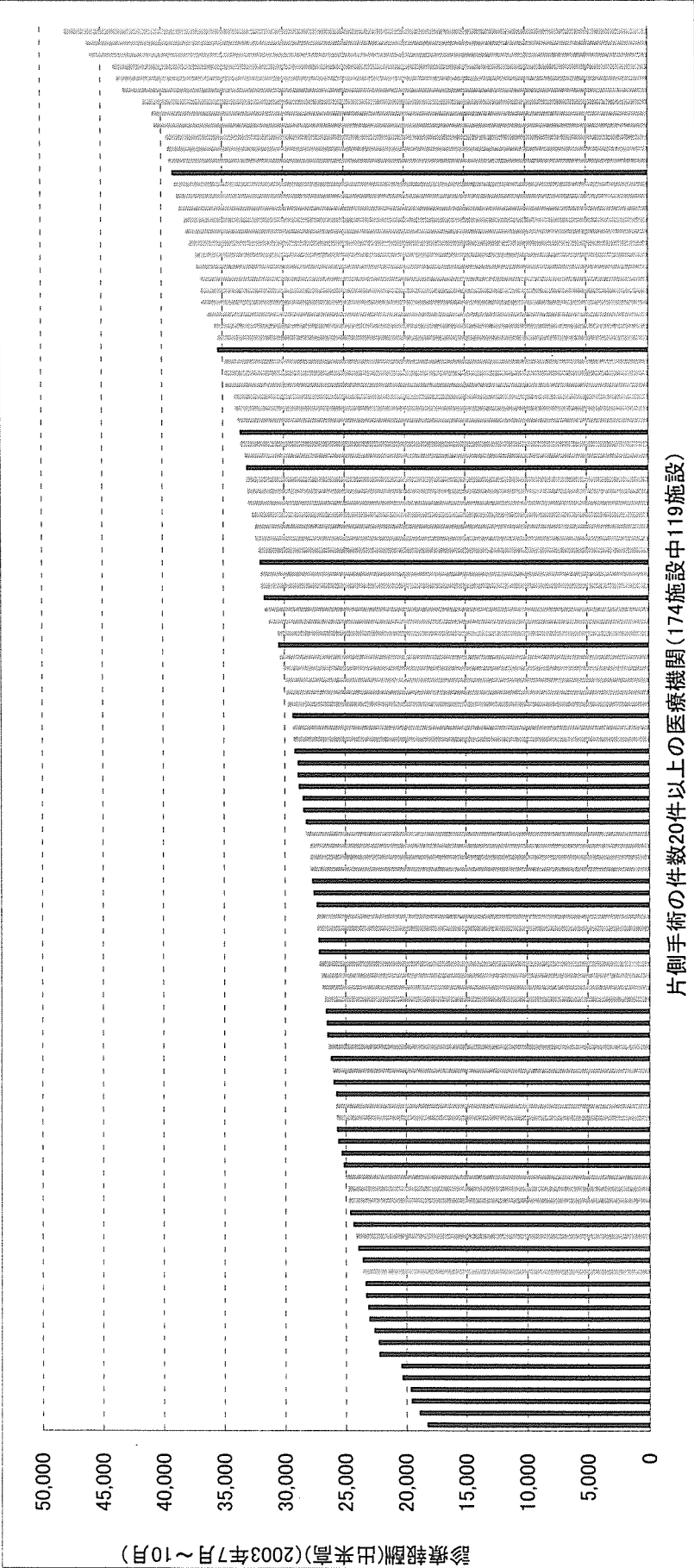
【コメント】

・片側手術よりも両側手術のほうが、平均在院日数が長くなっていた。

白内障、水晶体の疾患に対し片側手術を施行した症例における一入院当たり診療報酬〔出来高〕平均値(N = 7,216)

解析対象DPC番号の範囲 0201103

解析対象DPC番号の範囲		0201103											
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95	
	白内障、水晶体の疾患／片側手術施行症例												
	診療報酬〔出来高〕	30,579	6,331	18,301	47,983	22,096	23,381	26,038	29,306	34,783	39,170	41,671	
	その他の参加病院(48施設)〔出来高制度の総点数〕	26,319	4,334	18,301	39,112	19,633	20,415	23,371	26,224	28,680	31,795	33,446	
	特定機能病院(72施設)〔出来高換算総点数〕	33,360	5,882	23,579	47,983	24,934	26,091	28,160	32,960	37,346	40,771	43,790	



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数20件以上の施設を解析対象とした。単位は診療報酬点数数である。

特定機能病院

その他の参加病院

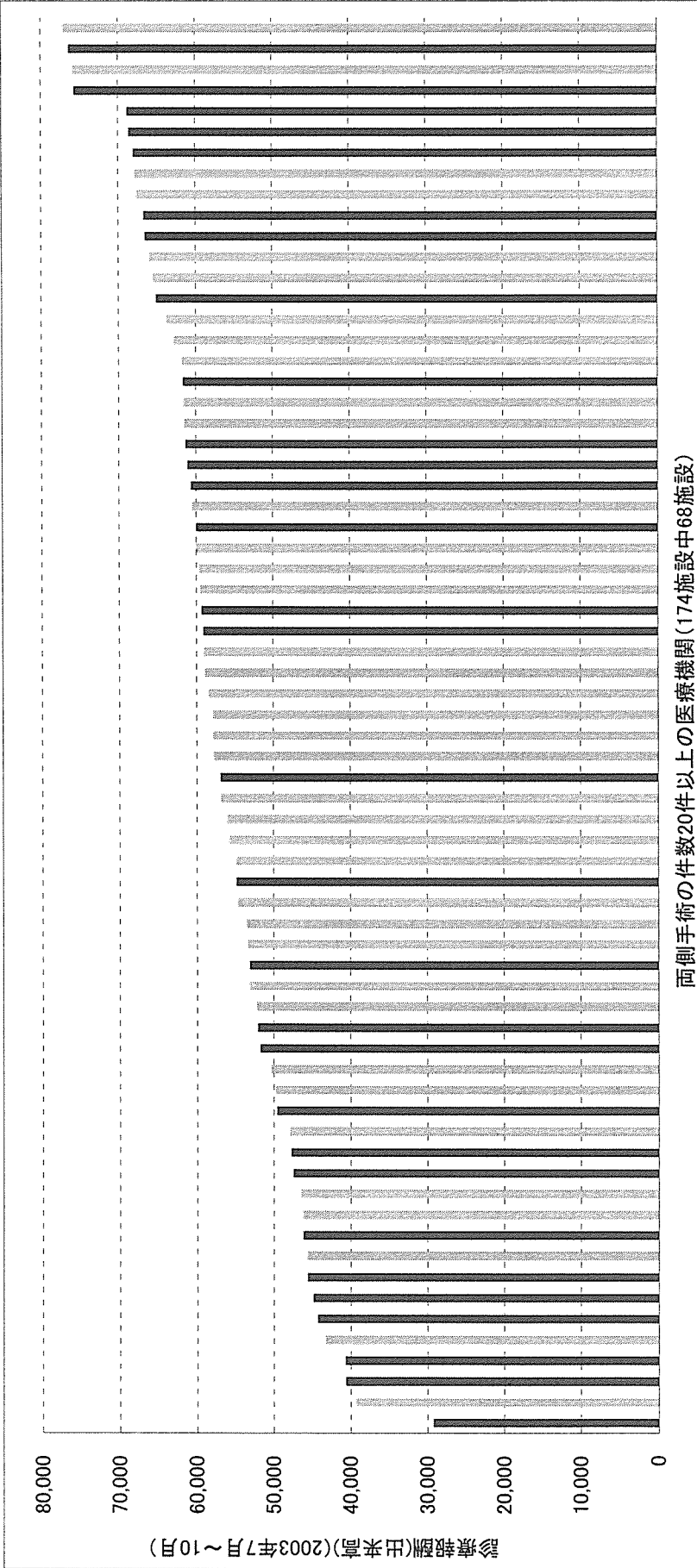
【コメント】

- ・片側手術の診療報酬〔出来高〕は、特定機能病院のほうが高い傾向にあった。
- ・平均在院日数は施設間で7倍の差があったが、診療報酬〔出来高〕では2倍程度の差しか見られなかった。

白内障、水晶体の疾患に対し両側手術を施行した症例における一入院当たり診療報酬〔出来高〕平均値 (N = 3,319)

解析対象DPC番号の範囲 0201103

解析対象DPC番号の範囲		0201103		パーセンタイル									
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95	
白内障、水晶体の疾患／両側手術施行症例	診療報酬〔出来高〕	56,807	9,495	29,234	77,101	41,590	45,404	50,206	57,809	61,662	67,890	73,274	
	特定機能病院(38施設)〔出来高換算総点数〕	57,343	8,095	39,300	77,101	45,297	46,462	53,227	57,809	61,489	66,377	69,033	
	その他の参加病院(30施設)〔出来高制度の総点数〕	56,128	11,129	29,234	76,372	40,668	43,960	47,556	57,968	64,215	68,597	72,582	



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数20件以上の施設を解析対象とした。単位は診療報酬点数である。

特定機能病院

その他の参加病院

【コメント】

- ・両側手術施行症例における診療報酬〔出来高〕は、特定機能病院とその他の参加病院ではあまり差が見られなかった。
- ・診療報酬〔出来高〕の施設間ごとのバラツキには、在院日数ほどの差が見られなかった。